

# the Final selection for 2015 JODA national team

## '15 最終選考会 / 計測報告 from team measurers !



大会グレード：OPクラスでの国際選手権大会の出場を賭けたレガッタ、20クラブ 40名が参加  
 主催者：日本オプティミストディンギー協会 大会運営：江の島ヨットクラブジュニア  
 協力：一般社団法人江の島ヨットクラブ 藤沢市ヨット協会  
 後援：神奈川県、神奈川県教育委員会、藤沢市、藤沢市教育委員会、  
 神奈川県セーリング連盟、神奈川新聞社  
 協賛：株式会社フォーシーズ  
 公式日程：2015. 3.21 ~ 24 会場：江の島ヨットハーバー  
 大会構成：フリートレース 12レース  
 クラス・テクニカルアドバイザー：花田 卓教  
 レース委員会：委員長 高宮 元人 チーフメジャーラー 荒川 渡  
 プロテスト委員会：委員長 川北 達也

### 海外行きキップを 求めて

江の島に集合した40セーラー、皆の手には 広島全日本2014で getした IODA選手権2015へ行くための 整理券がしっかりと握りしめられている。彼/彼女らの全員が 海外に旅立てられればいいのだが、あいにく World 5枚、Asia 10枚、Euro が4枚しかないので 此处で 血みどろの戦いを 繰り広げるしかないのだ。



ここはトランジット空港のチェックインカウンター。国内線から国際線に乗り替える列に並ぶが、座席は19しか空いてない。



計測場は 関所のようなもの  
このトンネルを抜けると  
最終選考会の世界が広がる。

桐井さん  
(OM)

仲さん (OM)

### 3月20日 (金) 早期到着日、計測

公式レースとは、諸規則 (RRS、ERS、クラス規則、NOR、SI、等) をより尊重してレース運営を行うもの、規則を皆が守らなければ公平感はゼロとなる。大会計測 (装備の検査) の目的は規律の維持だが、完璧さを求めれば 時間・費用とも多くなる。この2次選考会は、1次選 (全日本) でフル計測をしているので、同じ艇で出場すれば、今回は証明書とシリアルNo.の一致で承認をした。ただ JPN 3335は 全日本後に新艇を購入したので この基準が満たされず、重量をチェックした。今回、2月に計測講習会を修了した準計測員が多く集まり、その時はセールスの計測実習しかできなかったため この機会を利用して、艇体重量の計測実習も兼ねる事が出来た。



## 計測チームメンバー

EYJCさんは活気に満ちている。今は特にマザーズがパワフルで目を見張る活躍ぶりが頼もしい。昔と違い共働きの当たり前の今『女性は強し、されど母はもっと強し、稼ぎある母は最も強し』なので海上運営も普通にこなす。平日は仕事で学生が交代要員として彼女らの穴を埋める時代で、陸上計測は全て有資格者だった。

### 公式計測員

仲 彰英 061-F-0058 藤沢  
 宇田川真帆 061-F-0068 横浜  
 桐井 啓祐 061-F-0064 EYJC  
 矢野 荘一郎 061-F-0055 JODA  
 荒川 渡 061-F-0001 JODA

### 準計測員

竹内 陽子 準M 383 EYJC  
 パーキス由美 準M 389 EYJC  
 和知 愛 準M 390 EYJC  
 青木 薫 準M 373 EYJC  
 竹内 賢太郎 準M 382 EYJC  
 岡田 佳代子 準M 397 藤沢  
 池田 紀子 準M 375 EYJC  
 関 慶 準M 383 千葉  
 榊原 和久 準M 304 JODA  
 高山 道和 準M 320 JODA

### 海上計測担当

黒田 修 準M 325 EYJC  
 パーキスアドリュー EJYC  
 野呂瀬さん EYJC  
 山口さん 東京海洋大学



## 新任の公式計測員トレーニング

今回は計測員数も十分に充たして順調に運んでいるのでこの講習会で資格を得た仲、桐井、宇田川さんのために持ち場を離れて、フォイルとスパーの実技講習を行った。これでセール、艇体重量、と合わせて全ての実技を済ませた。

2月28日に江の島計測講習会があり、34名が参加しましたが、そのうち16名は女性、EYJCからは21名の方が受講されました。日本OPの故郷と言えば江の島、EJYC (EYJCの旧称)の創立はJODA創立より4年早く、IODAよりも1年早いのです。このような伝統あるクラブに秋の全日本もホストしていただき光栄です。

## ボートビルダー & セールメーカーの戦い

昔は日本にボートビルダーがいましたが、現在はスパー・フォイルも含めてありません。しかしセールはかなりのシェアを占めるノースセールの日本社があります。レース海面を走る艇の、自社と他社との、装備のシェアを巡って戦いが繰り広げられます。

### 40艇に使用されたボートは？

### 上位艇に使用されたセールは？

### 40艇に使用されたセールは？

	20 艇
	7 艇
Ziba Sp.z.o.o.	6 艇
	5 艇
	2 艇

1位	North Sails
2位	Olimpic Sails
3位	J Sails
4位	North Sails
5位	J Sails
6位	North Sails
7位	North Sails
8位	J Sails
9位	J Sails
10位	J Sails

	20枚		16枚		4枚
--	-----	---	-----	---	----



3月21日(土) 公式到着日、大会受付および計測 11:55 Race 1 の予告信号

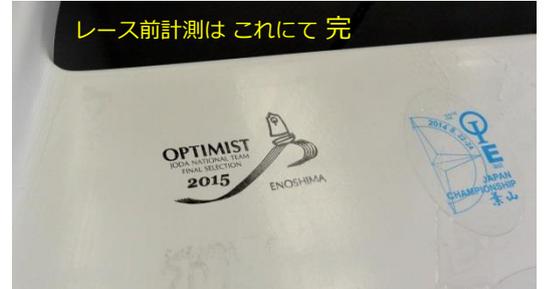
春先は 天気が変わりやすく、天気予報もあてにはならず、雨が降っているので受付机を艇庫の中に入れ、スタンプする箇所の濡れ



をめぐうためにウェスを用意した。40艇中35艇の計測は昨日終了しているの、朝のわずかな時間と少人数の計測員で 予定よりも早く 残る5艇を完了した。今回ほどトラブルの少ない検査も珍しい、選手の理解が進んだのか、コーチのクラス規則の指導がいいのか...? 難点と言えば計測場が狭かったことくらい。



選手の表情には緊張がみなぎる S.ミーティング



レース前計測はこれにて完



JPN3162



JPN3334

次の配置は レスキュー 兼 計測艇

10:00 開会式 11:00出艇

とオンタイムで過ぎていく、雨上がりは吹いてくるもの どんな波乱に富んだ展開になるのかは誰にも予測がつかない。陸上の計測も一段落つき、風が吹かなければレスキューの役割は 後詰めのようなものなので リラックスする。この艇からの視点は ジュリーの次に選手に近く、仕事の合間に出来る 選手達や 運営・コーチ ウォッチングにはいい。ところが 12:00にスタートすると 吹き上がると思っていた風が 逆に落ちてきた。風のリザーブが出来ないのが3月選考会の悩みだが、得てしてドラマとはこういう所から始まるものだ。フィニッシュ後の海上計測は 1-2-3位 を拾い検査したが 全く問題無し。



R1 スタート

Mr. Perkins

Mr. Kuroda



海上計測チーム 初日

# 3月22日(日) Race 2

私の5日間の江の島滞在は3日目となるのに、まだレースは1つしか成立していない。

しかも朝は無風で陸上待機となる。北が吹くとの予想に反し南が入り、11:52 R2がスタートした。レスキュー2艇のルーチン行動はスタート後フリートの両翼(私達はポートサイド)に付き1マーク付近までエスコートする。その後はレスキュー2がフリートの後尾に付



き、私達はフィニッシュの海上計測配置に着くためにフィニッシュRC艇に向かう。そしてフィニッシュラインがFIXされたのを見て、まずコーチ艇がフィニッシュ海面に近づきすぎる事を規制するマーシャルブイを打ち、次に海上計測に適した場所にアンカーを入れて待機する。



↑は、12:10 計測艇の前を通り過ぎる時のもの、↓は12:35 トップ艇フィニッシュ時、この25分間にどんなバトルが展開されたのか？結果は JPN3257 と JPN3110 のワン・ツー。R1に続いてこのR2も同じ順位を取り、圧倒的な強さを周りに見せつけた。



次々とスタートを打つ。R 2の終了時刻とR 3のスタート時刻は19分、R 3とR 4は14分、R 4とR 5は19分の間隔と記録されている。



本部船『えぼし』のブラッグポールは釣竿のようにベントして 風速計を兼ねている。

アダム氏の 写真は選手の生き生きとした表情をよくとらえていて 好感が持てる。実際に海上に出られない人にはこのような世界感 は まったく想像もつかないと思うし、写真の表情は 子から親に渡す ヨットの通信簿のようだ。

**競技者の広告 (クラス規則 2.8 広告 ISAF規定 20)**

計測委員会は 右の写真の GORE-TEX のロゴを 大会期間中は表示させないようにすべきで、チェックしたつもりが漏れてしまった。バウから艇の長さの40%までは、大会スポンサーのためにキープされるため、競技者は個人の広告を表示する事が出来ない。GORE-TEX はこの選考会のスポンサーでは無いため、競技者の広告とみなされるのでマスキングするか 又は剥がさなければならない。



規則100mm以内  
これで80mm位 →

バウのロゴは 今回の大会スポンサーではないために 空白とせねばならない。



## 3月22日(日) 本日最終 Race 5

21日、22日と 義規デーは続く、R1からトップを走り続け、1-1-1-1で3~7m/sの風では無敵ぶりを発揮している。半日(4.5時間)で4レースを実施したが、特に短いコースでもなく、中身の濃いレース運営だった。おつかれさま。



R 5 Finish !

3位 鈴木 亮太郎

2位 義規

写真が切れて失礼 →  
トップのJPN3211  
池田 海人



5位 菅澤 龍佑

4位の 小菅 楓 検査のために計測艇に近づく

レース運営は 計測に力を注ぎ、大会目的に貢献する喜びの他に、人とミートする面白さがあるのも その大会の持つ魅力だ。この世界には 性格や経歴のユニークな人が多いし、ユニークでなくとも 皆さん深い味わいを持っているのは、国内・国外とも共通なので私はいつも楽しみにしている。部署が同じ人とは連帯感が生まれ、仕事が心と心を繋ぐムアリング ロープとなる。初日は 黒田さんとパーキンスさんだったが、2日



一日が終わり、風はあるが疲れた選手たちは曳航で帰港する。

目は 黒田さんのみ野呂瀬さんと交代した。5日間の日程のうち平日が3日もあるとやりくりが大変で人が目まぐるしく変わる。

パーキンスさんとは 以前からお話がしかつたが 2日間海上で時間を共にして知り合えて、彼の家族想いが私に伝えられた。この日はアンカートラブルが2件、レスキュー2がマーシャルブイのロープをペラに絡めたためシーナイフで切断、また他は海上計測後に回収しようとして抜けなくなってしまった。



野呂瀬さん

皆が帰った後も 根がかりした アンカーと格闘



大会本部

前後左右にフルパワーを何度も駆けるが 地球に食い込んだ楔はしらん顔して連れられないそぶり、周りに誰もいなくなり頭がプツンしそうな時ロープの方からプツンして縁を切ってくれた。やっとの思いで本部までたどり着くと、そこには小さな茶菓接待があり、誰が考えてくれたのか、これを目にしただけで心が和んで 嬉しかった。

### 3月23日(月) Race 6~7

今日から平日、運営は会社に出かけた人に替わり、年金者と大学生が増える。計測艇も

EYCJの人がいなくなり、東京海洋大学の山口君と 横浜計測センターの宇田川さんが乗艇する。風に恵まれず、陸上待機の後、吹きだしたと思ってレース海面に出ると、風向がクルクルとまわり 運営を振り回している。結局 期待していない南弱風で12:35スタート。



良いのか悪いのか 最近では 海上計測の違反検出は 抗議書の提出と共にめっきり減少している。先月カタルの大会に出かけたがその多さにあきれた。しかし日本でも海上計測を採用し始めた15-6年前は似たような状況だった。プロテストも昔はジュニアが判決を不服として

審問室を去る時に おもいきり机を蹴って出て行ったことがあったが、69条かどうかは別として、今では見かけなくなった 気概あふれる選手がいた事は 懐かしい 思い出である。



レスキュー1 兼 計測艇



レスキュー2

## 3月23日(月) Race 8

一方レース状況の方は 義規が1-5を引き相変わらず。ちなみに彼はこの誰もが喉から手が出るほど欲しい5位を最終では捨てレースにするほどリッチな選考会を楽しんでいる。次に 服部陸太がR7の1位と捨てレース(17位)ができた事で総合2位につけてきた。残る3枚のキップ予約は 内貴航路朗、抜井理紗、菅澤龍佑、嶋倉輝晃、鈴木亮太郎 etc と続く。



R6は 165° 4m/s。R7は 185° 2m/s で 15:16 に終了 風は止む。風待ちのまま帰港時刻の迫る頃。突然 20°からの強風が入り、これでキップのゆくえは誰になるか 俄然おもしろくなってきた。

期待の倉橋直暉と言え、全日本優勝後スペインへの武者修行は、300艇参加の国際レースで4位を取り、前哨戦となった強風のアーリースプリングでは 1-1-1-1 を引いて王者の貫録を見せた。しかし低迷している。インタビューすると「風が思った方向ではなく 違う所から吹く。」との事、『勝負は時の運』とは言え、紙一重の差が続くと魔物が そっと心の中に忍び込んでくるものなのだ。選考会は スポーツのドラマ、人生のように 吹く風のまま その選手の 定めが決まる。海や自然に対して誰も文句は言わないが、海は いつしか 人を大きく育てて回答する。



シリーズはこの風で仕切り直しとなるか？ 期待を求めてコーチボートが走り回る。



16:20  
U旗でスタート





一時は 9m/s まで上がった風も落ちてきた、村瀬也海 (1マーク1位) と直暉 (同2位) との一騎打ち。

最後のミーティングで也海 を抑えてフィニッシュ“強風の直暉”としてなんとか面目を保つ事ができたがこれは 1/12のトップでしかない

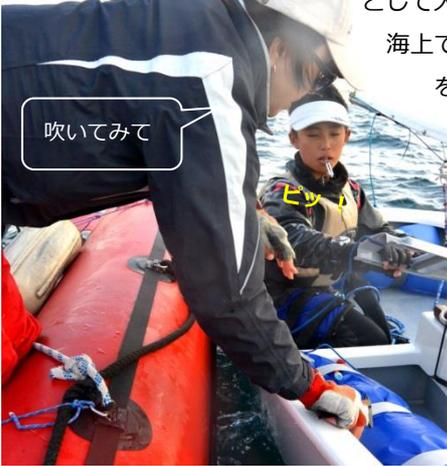


## 海上計測

上位10艇のうち3艇を検査するが、計測員の恣意が入らないよう ジュリーにランダム順位を決めてもらう。海のスポーツとして大切な安全規定と海上で調整可能な項目

をフィニッシュ直後

に行う。選考会ではレース毎の3艇が上位が安定しているために同じ選手に当たる事が多いが、混乱を避けるため繰り下げたりしない。JPN3294は6回も計測を受けて新記録となった。



終始安定した順位で2位につけている陸太は まだ小学生、あの海の向こうのヨーロッパで待っているWorldを夢見ている。明るい夕日に輝く海の光の道筋は彼のセーリング人生に向かう道のように明日はポーランド行切符をもぎ取ろう。

## 3月24日 (火) Race 9~10 the Final day of the Final selection

R 9 は風待ちの後 11:30 2~2.5m/s の風でスタートした。

選考会はいつも春の嵐が吹く。気象的にも吹くことが多いが、選手達と親達の心の中には必ず冷たい吹雪や大会スタンプのデザインのような大波が押し寄せたり意志を挫かせるような強風、一部には桜吹雪が吹く人もいる。しかし一番恐ろしいのは無風と微風だ。朝から超微風が吹いているし、冷酷な最終Rのタイムリミットの足音がだんだんと忍び寄ってくる。そんな気持ちをよそにして誰もがとても明るく振るまっているし、このOP関連の仲間が大集合した貴重な時間を楽しんでいる。一度決定された『定め』とは受け入れなくては どうしようもないと理解しているからだ。レースの神様が下される決定を司るのがレース委員会であり すごくいい運営をしてくれた。



レスキュー1兼計測艇は出港時はフリートの最後尾に付きレース海面に向かう。シリーズで北風は一度吹いただけ、あらゆる手段を尽くして風を得るべく、レース委員長はかなり沖出しをして水深60mもあるB海面を選んだので、コーチボート待機エリアを示すマーシャルブイは打たない事にした。計測艇のアンカーリングについて委員長に尋ねると「打たない方がいいのではないか？」との回答、海洋大の山口君、宇田川さん、荒川はこの海底についてよく知らないのでホバリングで計測を行う事にした。そうであれば3マークまでレスキュー行動を取る。1マークトップはJPN2891 谷望、次はJPN3057 須河内陽夏、三番手に義規が続く。するとあろう事が3057が沈をした。



フリーで特にアンヒールもしていないので不測の事態もあり得るとレスキュー1はダッシュするがしばらくして人影が動くのが見え、レースの邪魔をしてはいけないので静観した。しかしショックが大きかったのかなか起きなかった。せつかく2番の位置に付けたがもったいない。

微-軽風でも上位6名のうち3名がワールド出場となる選手が入っているのはさすが。フリートが3マークを回る頃 レスキュー1は計測艇に早変わりして所定の位置に付いた。



陸太は3マークで2番に付けたが8位となった。しかしシングルに留まったことで切符のgetを確実にした。直暉は2着まで上がった事により昨日の9位からWorld圏内まで這い上がってきた。

フィニッシュは1マークの順位とは変わり ①義規 ②直暉 ③内海拓馬 ④池田海人 ⑤前田海陽 ⑥谷 望

一方昨日まで3位だった 航路朗は20着。4位の理紗は落とすも10着に踏み留まる。5位の龍佑は33着。6位の照晃は37着の波乱。5枚の切符は義規と陸太に2枚持って行かれたので残る3枚はシャッフルし直し、あと1回しかチャンスがないファイナルの一撃に賭ける!!



日本の象徴 富士山を背に もうすぐ19本の桜が咲く

右はスタートの1分後を撮る。今年は東海勢が健闘し5名中4名がナショナルチーム入りを果たした。



R10の順位は ① 玉山 義規 ② 蓮 千鶴  
 ③ 服部 陸太 ④ 菅澤 龍佑 ⑤ 須河内 陽夏  
 ⑥ 抜井 理紗 ⑦ 村瀬 也海 ⑧ 小柳 倫太郎  
 ⑨ 嶋倉 輝晃 ⑩ 須田 英実子 ⑪ 内貴 航路朗  
 ⑫ 池田 海人 ⑬ 倉橋 直暉 ⑭ 磯辺 杏心  
 ⑮ 鈴木 亮太郎 ⑯ 内海 拓馬 ⑰ 前田 海陽  
 ⑱ 佐々木 M 星和 ⑲ パナハ 花 ⑳ 小菅 楓  
 ㉑ 三浦 凧砂 ㉒ 安藤 龍海 ㉓ 木田 拳太郎  
 と続き 捨て R が一つ増えさらに混戦模様となる。

成績は掲示板に発表されるまで解らないが、選手たちには 数学が苦手な人でも 案外ライバルの捨てレース得点までも頭に入れてマークを回航するごとに計算し直し、入ったか入らないかがレースをしながら判るものなのだ。希望とあきらめの繰り返しはレースだから。ただ 航路朗と龍佑だけは別、同点になり RRS付則 A 8.1でタイを解消せねばならないから。World とEuro を分けた運命の A 8.1 !!



第10レースの最後の3艇をチェックして 違反がないことを確認すると海上計測の任務は終わった。計30艇を検査したが それらの艇を調べて違反の検出は一件もなかったし、危ないものもなかった。後はレスキューとしてフリートの末尾をエスコートし帰港するだけ。任務完了の満足感やうれしさを3人でシェアする。5日間は長くもあったが、計測員の仲間との付き合いは楽しくもあった。

### 最終選考会の光と影

40名の選手のレリーフに10レースの運営からの光を斜めから照らすと、くっきりとハイライトとシャドウが浮かび上がった。Resultの一番上には 義規に7つの星(1位)が輝き10レースの合計が1ヶタと言う途方もない結果をたたき出した。陸太も8位を捨てる程の安定したスベリを見せて祝福された。続く理紗、亮太郎、航路朗、龍佑の4人は レース委員会の奮闘で10レース目を現実とさせたためにそれぞれが 53点、54点、56点、56点と言う、選考会らしい椅子取りゲームとなったが タイの解消にスローモーションビデオのような分析をして最高順位2位を取った航路朗が3位の龍佑に判定勝ち !!



以上の5名がWorldの夢を叶えた。AsiaとEuro とでは 日本は Asiaのメンバー国だが Euroはオープン参加、しかし 選手達には自分の将来のための修業となる、より強敵の多いEuroを好む傾向があり、龍佑、海人、直暉、千鶴 が選択した。なお、楓はこの時には一度NTを辞退したが、後日 Euro枠が1名追加となったためにヒアリングで Euro に返り咲いた。ダークホース照晃は 2位を 3回取る程の好調もあったが、直暉に1点及ばずAsia。也海、海洋、航汰、倫太郎、星和、英実子、陽夏、拳太郎、凧砂がカタル便のチケットを手にした。惜しくも切符の届かなかった選手には 北米便を増発する予定もあるので期待したい。今回の成績表を見ると DSQ が1件もなかった事が印象的だった。

2015 / 04 / 06 荒川 渡

### RESULT

World	Asia	Euro
1. 玉山 義規		3257
2. 服部 陸太		3174
3. 抜井 理紗		3115
4. 鈴木 亮太郎		3294
5. 内貴 航路朗		3320
6. 菅澤 龍佑		3288
7. 池田 海人		3211
8. 倉橋 直暉		3226
9. 嶋倉 照晃		3110
10. 村瀬 也海		3283
11. 前田 海陽		3145
12. 桐井 航汰		3020
13. 蓮 千鶴		3334
14. 小柳 倫太郎		3267
15. 小菅 楓		3142
16. 佐々木 M 星和		2948
17. 須田 英実子		3269
18. 須河内 陽夏		3057
19. 木田 拳太郎		3044
20. 内海 拓馬		2976
21. 三浦 凧砂		2877
22. 磯辺 杏心		3270
23. 長谷川 真大		3251
24. パーキンス 花		3125
25. 国見 有		3168
26. 安藤 龍海		3162
27. 谷口 美羽		3242
28. 谷 望		2891
29. 中川 大成		2987
30. 大槻 多恵美		3281
31. 林 玄		3170
32. 中川 晃		3203
33. 岡田 大治		3335
34. 上園田 心太郎		3032
35. 石原 大地		2962
36. 坂井 友里愛		3285
37. 松尾 華		3119
38. 尾道 葵音		3256
39. 遠藤 啓祥		3302
40. 草刈 励		3262